

# 融和的日本社会の構築に向けて —少数言語話者との共生と複言語・複文化能力—

2011年10月7日

日本ロシア文学会 プレシンポジウム

ロシア語発「外国語教育連携の時代へ — 生涯教育から外国語教育へ —」

慶應義塾大学経済学部

慶應義塾大学外国語教育研究センター

境 一三

## 目次

- 日本社会の現状と教育の乖離
- 日本社会の急速な多言語化
- 多言語社会は「当たり前」
- 外国語教育の二つの方向
- 日本の外国語教育の問題
- 日本における複言語・複文化能力養成の必要性

## 日本社会の現状と教育の乖離

- **社会の変化に対応できない言語教育**
  - 長期的展望に立った教育理念の不在
  - 明確な話者像の不在
  - 言語政策の不在
  - 言語教育政策の不在

## 日本社会の急速な多言語化

- **近隣アジア諸国や南米からの労働力流入**
  - 同じコミュニティの仲間としての外国語話者たち
  - 小学校などで日本語を母語としない生徒の増加
- **地方自治体での住民サービス**
  - 神奈川県庁のホームページは10言語
- **母語・継承語とアイデンティティー**

## 多言語社会は「当たり前」

- 日本が単一言語社会という幻想
  - アイヌ、琉球語 etc.
  - Old Comers & New Comers
- 世界のほとんどの地域は多言語
- 世界の多くの人間が複数言語話者

## 外国語教育の二つの方向

- 「外」とのコミュニケーション
  - 外国文化の受容
  - 外国への発信
- 「内」におけるコミュニケーション
  - 国内の複数文化がどのように共生するか
- 「外」>「内」 から 「外」⇄「内」へ

## 日本の外国語教育の問題

- 多言語社会としての日本を前提としてこなかった
  - 辛うじて「外への発信」を考慮してきたに過ぎない
  - 「外への発信」は英語に依存してきた
  - 世界の多様性を考慮してこなかった
  - 現場密着をだんだんと忘れていった: 日本企業の敗北
- 今、世界と日本社会の多様性に即した言語教育を考えると  
き → 複言語・複文化能力の養成
- Citizenship 教育としての外国語教育

## 日本における複言語・複文化能力養成の必要性

- 多言語・多文化共生社会の実現
- 独立国の市民として適切な判断を下す能力を養成する
- 英語+1ないし2言語
- ロシア語を含む近隣の言語を含める

**БОЛЬШОЕ СПАСИБО**

ご清聴ありがとうございました。

skazumi@a8.keio.jp